

「子どもの興味・関心から始まる プロジェクト・アプローチ」
～音楽表現・造形表現・身体表現をつなぐ実践を通して考える～

豊泉 尚美
鹿戸 一範

“The Importance of Children’s Creative Expressions Fostered
by Various Projects and Activities in Music and Art”

Naomi Toyoizumi
Kazunori Shikato

キーワード：音楽表現、造形表現、身体表現、プロジェクト活動

Key Words : activities in music and art, project approach

要約：保育所では「保育所保育指針」のねらいに沿って、保育内容「表現」をどのように実践しているか、公立保育所の現状を調査する。その結果を参考にしながら、筆者自身が音楽表現・造形表現・身体表現をつなぐプロジェクト活動を5歳児クラスで担任保育士と共に行い、その対話による協同的な学びの過程を通して、保育士が子どもと共に行う表現活動の可能性を探る。

本論は 2017 年度に行った「公開保育」(1) (狭山市立 S 保育所) と、2018 年度に進めている「プロジェクト活動」(狭山市立 H 保育所) の実践的調査報告である。

筆者が保育所で実践した「プロジェクト活動」とは、子どもの興味・関心から始まった一つのテーマを長期にわたって追求する活動であるが、筆者は、「プロジェクト活動」を子どもが興味を抱いたテーマについて、子ども同士、また保育者との対話を重ねることによって子どもそれぞれの考えや多様な表現が引き出され、興味のある事柄を共に探求し、協同して理解を深める営み、学び合うプロセスであると捉えてきた。(2)

保育所の 4, 5 歳の子どもたちが興味をもったテーマを協同して掘り下げていく過程では、対話と同時に、聴く、見る、触るなどの感覚的体験の機会も多く、その経験の中から子どもたちそれぞれの表現活動も生まれてくる。

子どもたちが「プロジェクト活動」の過程で表現する方法には、子どもの対話を通して生まれる言葉やファンタジー (おはなし) をはじめ、造形的表現・身体的表現・音楽的表現・総合的な劇的表現などがある。その中から、子ども自身の表現方法ができるだけ自由に選べるよう、保育者 (担任と筆者) が環境を構成し、アトリエスタ (3) のような立場で関わった。

本論で「プロジェクト活動」を見ていくにあたり、

1. 対話や造形的に表現されたものから、子どもの想像や思考を推察しながら、子どもたちがどのように自分たちのイメージを具現化していくか、に注意して保育者が気づいたこと
2. プロジェクト活動の経過と共に子ども同士の関係がどのように変化したか、を公開保育に参加した保育士と筆者との振り返りの中で出された意見からまとめてみる。

プロジェクト A (4 歳児 19 名・4 グループ) 「自分たちだけの遊び空間を作りたい！」

2017 年 5 月～2017 年 12 月

1. プロジェクト活動の過程 (S 保育所)

S 保育所では 4 歳クラスの子どもたちが 4 月初めに園庭で自由に遊んでいるなかで、そこにある可動遊具や古タイヤ、ござ、丸太などを組み合わせ、保育者に頼んで布で屋根状のものを付けてもらったりして「自分たちの遊び空間」をたびたび作っている姿が見られた。

その中から秘密基地のように、自分たちのクラスだけで使えるものとして作りたい、という希望が挙がり、「もっとすてきなひみつきち」を作ることになった。

活動するにあたり、環境構成については、ふだんの保育環境に、様々な材料や道具が用意され、それらを自由に使って子どもたちが表現活動できるようにしておくことが望ましい、として保育室の隣の廊下奥に、仮設のミニアトリエを設置した。そこには自分たちで考えた遊びの空間を立体的に形づくることのできるよう、園のすべての保育者が協力して素材を提供した。

子どもたちが話し合う中で様々なプランは出てきた結果、「おかしな秘密基地」「プールの秘密

基地」「チョコレートの秘密基地」を作ることにもとまる。色々な素材（段ボール・養生テープ・ひも・ガムテープ・紙類など）を保育者が用意したが、最初は興奮してその素材でただ遊ぶ子どもが多かった。その後それぞれの素材の特色を理解するにつれ、用途に応じて扱うことができるようになっていった。

うまくつなげることができない、作ってみたがすぐ壊れてしまう、といった思いとおりにいかないことも経験しながら、絵の具でダンボールを塗ったり、ひもを結んで固定したり、といった子どもたちの作業が驚くほど巧みになっていったことに担任が気づいた。



Figure1 「結ぶ」ことがじょうずにできるようになる



Figure2 「チョコレートをつくる」



Figure3 「できあがったチョコレートをおかしの家に貼る」



Figure4 「大型冷蔵庫」を制作中

プロジェクト活動を通じて子どもが表現したもの（一部）

おかしの秘密基地：大型冷蔵庫を中心に制作し、様々な素材を工夫して作ったたくさんのおかしを冷蔵庫に入れて売る、お店ごっこが展開した。

プールの秘密基地：プールとスライダーを工夫して作り、水しぶきを表現した。最初のうちは、自分たちのクラスだけで遊べるのが楽しい様子で、何度もそこで遊び込んでいたが、やがて他の年齢のクラスの子どもたちも招いて遊ぶ機会も出てきた。

チョコレートの秘密基地：絵本を何度も見ながら、チョコレート工場のしくみを理解して自分たちなりにチョコレートができる工程を再現して作り、他のグループの子どもたちを招いた。

以上それぞれの秘密基地と、その中に何があったら良いかを皆で考え、時間をかけて制作した後、クラス全員で遊んだ。

2-1) 保育者が気づいたこと・確認したこと

- ・保育士が指示しないので、子どもが（例えば絵の具の色作りなど）失敗から学び、皆で考えようとする姿が見られた
- ・加配の保育士がいて、2人体制だからこそプロジェクトが可能だと思った。
- ・いつも自分（保育者）が準備をし過ぎてしまい、子どもの経験する機会をなくしてしまっていたことに気づき、反省した。
- ・普段の保育の中で行事や活動に追われることが多く、大人主導で制作や活動を進めたり、打ち切ったり、行事に向けての制作では見栄えを気にしたりしてきた。
今まで自分がどこまで子どもたちの声に耳を傾けてこられたのか、保育を見直す良い機会になった。
- ・つい大人の意見や手助けが多くなりがちだったが、自分にゆとりをもち、子どもたちがたっぷり素材に触れ、継続して納得いくまで楽しめるようにしたい。
- ・子ども主体で興味のあることを試行錯誤しながら満足するまで行っている姿を見ることができ、思い描いていた4歳児前半の姿より精神面で大きく成長している子どもの様子を見た。
- ・たくさんの子どものつぶやきを聞くことで、何を感じているのか、興味のあることにも気づき、今まで自分が「進める」ことに気持ちが向き過ぎていたのではないかと考えさせられた。待つことの大切さ、失敗することでの気づき、対話し、考える力につながる、気持ちの育ちなど、造形活動の中での学びは、生活のなかでも生かされる力で、それが子どもの土台となる大切な部分ではないかと改めて学ぶことができた。

2-2) 子どもたちの姿とその変化

- ・新しい素材に慣れると、造形活動が積極的、活動的になっていく。素材の応答性の確認をしながら、素材に関わっていく姿が見られた。
- ・自分たちで配合した色の絵の具で巧みに大画面を塗る、ひもを上手に固く結ぶ、などができるようになっていた。そうした活動に夢中になっている子どもたちの姿に感動した。
- ・以前より身体表現がのびのびとできていた。
- ・今まで以上に子ども同士で工夫する様子が見られた。
- ・保育者が決めるのではなく、とにかく子どもが自分で考え、話し合った経験を積み重ねた結果、子どもたちは保育者が思っていた以上の力を発揮している様子が見られた。
- ・どのグループも、子どもたちが生き生きと主体的に活動に参加していた。「やりたくない」と飽きてしまう子や、途中で投げ出す子が見られない。しっかりとイメージを共有して、具体化してから取り組んだからだろうか。

今回のプロジェクト活動の全体を振り返ると、プロジェクト活動が始まる前の四月当初は、子どもたちが日々好んで集まっていた遊び空間（秘密基地）は園庭の隅にあった。しかしそこにはパソコン、携帯電話に見立てた四角い木片しか持ち込まれず、男児は棒を手にテレビ番組のまねをした戦い遊びしかしなかったことに、担任たちは疑問を感じていた。

その後プロジェクト活動を通して子どもの遊びが格段に広がり、各グループで自分たちの遊び空間をみごとに作りあげ、そこで夢中になって様々な遊びを始めたことが大きな変化であった。

プロジェクト B:「音色を楽しむ」(5 歳児 21 名: 4 グループ) H 保育所

2018 年 4 月～2019 年 2 月

2018 年 4 月より H 保育所において、表現の領域での活動を大切にしながら、「音色を楽しむ」ことをテーマとした子どもの興味・関心から出発するプロジェクト活動を行った。

今年度「公開保育」第 1 回に参加した保育士から、主に保育内容「音楽表現」と「造形表現」に関する実践について聞き取りをした結果、保育所で使われている楽器は、主にカスタネット、タンバリン、トライアングル、木琴、鈴、手作りマラカスなどであった。また保育の中で保育者が演奏する楽器は圧倒的にピアノであり、ピアノを弾くのは、歌や体操の伴奏か劇中の効果のための演奏がほとんどだった。

他にどんな楽器を取り入れたいか、という問いにはギターを挙げた保育士が多かった。保育指針のねらいに即してどんな表現活動をしているかという問いには、ピアノや歌に合わせて踊る、ピアノを用いたリズム遊び・季節の制作物・いろいろな素材に親しむ感触あそびを挙げた保育士が多かったが、造形と音楽、身体の動きといった表現活動をつなげた内容の遊びは実践したことがある保育士がいなかった。今後の表現活動の広がりのために試みた今回のプロジェクト活動が、今後表現の領域でつながりのある活動の参考になったらよいと考え、本年度の実践を行ってきた。

1. プロジェクト活動の過程と子どもが表現したもの（一部）

このクラスでは、担任が幼少期に弾いていたヴァイオリンをクラスの子どもたちの前で弾いてみたところ、子どもたちがその楽器の様子や音色にたいへん興味をもった。そのきっかけから、「音色を楽しむ」ことに興味を持った子どもたちとのプロジェクト活動が始まった。

(1) ヴァイオリン、ピアノ、アイリッシュハーブをそれぞれ演奏し、その音色を聴いた。そしてそれぞれどんな音だったか、各自のイメージを子どもたちから聞き取り、その後、楽器の音を聞きながら絵の具でそれぞれの楽器の音色を描いてみた。

子どもたちはそれぞれの楽器の音色について、次のように語っていた。

ヴァイオリンについては、例えば「大きい音でびっくりした・キーンと流れる音・空まで飛

んでいきそう」など。

ピアノについては、「聞いているとおちついて安心する・いろいろな色の花が出てきたよ・ピアノがうれしそう・わくわくした」など。

アイリッシュハーブについては、「キラキラしてる・心がふわふわする・眠くなった
優しいお話を聞いているみたい・花びらがいっぱい落ちてきた」など。

- (2) 「またヴァイオリン聴きたい！」という子どもたちのために、担任が子どもたちの求めに応じて、「怒った音」「嬉しい音」「悲しい音」の曲を選んでヴァイオリンを弾いた。その後子どもたちはそれらの音をギザギザした線や波のような線で描いていた。



Figure5 ギターに触れて音を確認する。 Figure 6 ヴァイオリンやハーブから音が出てくる
仕組みを考えて楽器を描いている。

- (3) アイリッシュハーブとヴァイオリン、ピアノの順番で演奏を聴き、それぞれの音のイメージを長い障子紙に水彩で描いてみる。(曲は「ファニーパワー」、「おもちゃのシンフォニー」、「小犬のワルツ」その後楽器の演奏に合わせて、皆で自由に動いてみた。踊ってみた後の子どもたちは、それぞれの楽器が奏でる曲について次のように語った。(例)

アイリッシュハーブ: ・結婚式みたい! ・お花みたい・楽しい・桜みたい

ヴァイオリン: おもしろかった・ロボットになったよ・ウサギのダンス嬉しそう・リス見つけた・
キリンやコアラ・ハムスターが出てきた・スケートしてる・赤ちゃんができて嬉しい感じ

ピアノ: 走ってるみたい・公園で遊んでいて嬉しい・ユズルくんがスケートしてる・(スケート選手になりきって動いている姿) ・クローバーがどんどん伸びていく音

- (4) いくつもの楽器が登場する絵本『ドレミファどうぶつコンサート』(二宮由紀子文 みやざきひろかず 絵)を担任が読み、登場する曲も聴いてから、絵本や曲の印象や感想を話し合う。
- (5) 「どうして楽器の音が響くのか」ということに興味がある子たちがいたので、ハーブに触ったり、ピアノのふたを開けて中を覗いてみたりして、気づいたことを話し合う。
- (6) 「楽器を描きたい」、と思った子どもたちが楽器のかたちやイメージなどを描く。同時に作っ

てみたい気持ちが生まれ、現在は身近な廃材で楽器制作（ヴァイオリン・ギター・カスタネット・ピアノ・ハープなど）に向かった。完成したそれぞれの楽器の音色を皆で聴く。



Figure7 ヴァイオリンやハープ、ギターなどの楽器を制作中

2-1) 保育者が気づいたこと・確認したこと

1. 今回プロジェクト活動を見て、担任する 5 歳児クラスでの夏祭りについて、身近な地域だけでなく世界各地の祭りも意識しながら自分でもやってみたい、と思うようになった。グループで話し合いが始まり、あっという間に子どもの中にイメージができたことに驚いた。
2. 始める前は子どもたちに難しい活動だと思ったが、すぐ描き始める子やずっと聞いてから描く子がおり、全員楽しそうに描いていた。音を聞きながら、身体をゆすつていたり、鍵盤弾く真似をしたりしている子もいた。本物の楽器の音にふれる経験がとてもよかった。
5. ピアノ曲を聞きながら、リズムに合わせてバケツを筆のおしりでたたいている子がいた。「にっこりハープ」、「さびしくて泣いてるヴァイオリン」、「ピアノ怒ってるの」などと話しながら楽器の音色を描き分けている子がいた。
ハープの音色に合わせてすぐ目をつぶり筆で描いた子がいた。「はりねずみが草を飛び越える!」といいながら、筆をハリネズミに見立ててジャンプしている様子で描いていた。
6. その子ならではの独自の感想もあったが、意外とその曲のテーマに合致したイメージをもつ子も多かった。(例: ピアノで弾いたショパンの「小犬のワルツ」については、「犬とかウサギが走り回っているよ」と発言した子がいた。)

2-2) 子どもたちの姿とその変化

1. 子どもたちは始めとまどい、筆の動きが遅かったが、だんだんなめらかになっていった。「もっと描きたい!」という子がかかりいた。
 2. 曲のイメージを身体で表現できていた。楽器の音に親しんできた様子がよくわかった。
 3. 話し合いは難しいかと思ったが、いや! という子がいなくて、とても積極的だった。今まで話し合いを重ねてきたからだろう。
 4. 自分のイメージ浮かばないと、仲良しの子ども同士ならそっくりになってしまうことが多いが、自分の伝えたい思いをそれぞれに表現できている。
- 今回のプロジェクト活動は、約 10 ヶ月間継続して行われ、子どもたちの「音色」への関心

は更に深まった。そのことは、子どもたちが生活の中で聞こえる様々な「音」に対しても敏感になり、興味を持ち、子ども同士で音のことを語る機会が増えている様子から伺える。プロジェクト活動の過程で、子どもたちに音色に対する感覚の変化があった、と考えることができるだろう。

結び

現行の「保育所保育指針」の「3歳以上の保育に関するねらい及び内容」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

- ① いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- ② 感じたことや考えたことなどを自分なりに表現して楽しむ。
- ③ 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。」

が挙げられている。(4)

また、そのねらいに沿って3歳以上の保育の具体的内容も示されているが、こうした内容を保育のなかで実践するためには、造形、音楽、身体的表現といった様々な子どもの表現領域を縦断的、総合的に捉えるべきだと考え、筆者は保育所の4、5歳児クラスにおいてプロジェクト活動を行ってきた。保育者からの聞き取りで確認したところによると、保育所での子どもの表現活動は、現状では必ずしも表現の領域を縦断的、総合的に把握して実践されているわけではなかった。しかし今回プロジェクト活動に参加した保育者からは、主体的に制作に向かう子どもたちが根気よく試行錯誤を繰り返し、完成したときに達成感に溢れたよい表情を見せたことから、「日々の保育でつい時間に追われてしまい、口出しが多くなっていたことを反省した」といった感想や子どもがもつ力を信じ、子どもの対話を最大限に尊重することの意義を実感したという意見が寄せられた。今後も、子どもが興味・関心を抱いたことを観察したり、考えたり、子どもや保育者同士で話し合ったりしながら、主体的、協同的に探求していく過程である「プロジェクト活動」を現場の保育者と共に実践し続けることで、子どもたちの豊かな表現力を尊重した保育内容「表現」のありかたを協同して考えてゆきたい。

(1) 公開保育

埼玉県狭山市内にあるすべての公立保育所から1人ずつ保育士が参加して、担当園のクラス担任が講師と共に保育を公開する。

筆者は公開保育の講師として、担任と子どもたちと共にプロジェクト活動を1つのクラスで約8ヶ月～10か月にわたって行う。この期間内で2回の公開保育があり、参加した保育者は活動中のプロジェクトに参加すると共に、担任や講師と話し合いを行う。

(2) プロジェクト活動

本論では、第二次大戦後母親や教師たちが中心となり、ローリス・マラグッツィ (Loris Malagucci 1920~1994) を迎えて幼児期の教育として導入した、北イタリアのレッジョ・エミ

リア市での「プロジェクト」の実践を参考としている。

(3) アトリエリスタ (Atelierista)

レッジョ・エミリアの教育の特徴のひとつである「アトリエ」で子どもたちの多様な表現活動を支援する専門家。アトリエリスタは、1960年代から子どもの創造的想像力と知識を豊かにする大切な協力者として、レッジョ・エミリア市内の各園に配置されてきた。

(4) 「保育所保育指針」(平成 30 年 3 月) 厚生労働省

第 2 章 3. 3 歳以上の保育に関するねらい及び内容

(2) ねらい及び内容 オ 感性と表現に関する領域「表現」

[参考文献]

C.エドワーズ/L.ガンディーニ/G.フォアマン=編 佐藤学・森真理・塚田美紀=訳

『子どもたちの 100 の言葉』～レッジョ・エミリアの幼児教育～横浜：世織書房 2001

角尾和子「プロジェクト型保育の実践研究」京都：北大路書房 2008

佐藤学=監修 『驚くべき学びの世界』～レッジョ・エミリアの幼児教育～東京：ワタリウム美術館 2011

J. ヘンドリック=編 石垣恵美子・玉置哲淳=訳

『レッジョ・エミリア 保育実践入門』～保育者はいま、何を求められているか～
京都：北大路書房 2000

Istituzione Scuole e Nidi d'infanzia del Comune di Reggio Emilia

REGOLAMENTO SCUOLE E NIDI D'INFANZIA del Comune di Reggionilila

Reggio nell Emilia:Reggio Children Editore,2014 et al.